

令和6年度 白鳩チルドレンセンター八雲中事業報告

1. 概要

①運営方針

- 守口市においては待機児童が0名となったにも関わらず、令和7年4月より南部地域に保育園を3園オープンし、守口市立外島認定こども園が民間移管することになりました。定員割れなどは現状起ってはいませんが危機感を持ち、保育の質や地域支援を通して保護者に望まれる園であり続けられるように努めます。
- 昨年度に引き続き、園長、主幹保育教諭の交代がありました。またクラスリーダーも経験の浅い職員が多く、チェックリストの活用や本園での研修や園内外の研修で保育の質の向上、人材育成を行いました。
- 10月に大阪府の監査、12月に守口市の実地指導がありました。幼児クラスの聴力検査の実施や運営規定の追加項目等の指摘がありましたが直ぐに対応し、大阪府、守口市に報告をしました。書類等の不備はなく、継続して健全な運営を行っていきます。
- 守口市より利用定員の適正化を行うようにと指導がありました。利用定員を増加させ現在の130名に合わせるか、114名の利用定員に戻すようにとのことでしたが、運営上直ちに利用者数を引き下げることは難しいと伝えました。今後も守口市と協議を行いながら、徐々に114名の利用定員に合わせていくようにします。
- 園舎の建て替えから16年程が経過し園内の壁や床の老朽化が見られています。壁の塗り替えや床の研磨などの修繕を行いました。

②利用定員 129名（1号認定含む）

利用児童数	1号認定	16名（定員15名）		
	2号認定	74名（定員63名）		
	3号認定	56名（定員51名）	合計	146名

③開園日数 294日（日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園）

教育週数 42週

④開園時間 平日7:00～19:00 土曜日7:00～19:00

⑤保育時間

★2号3号認定児

平日	早朝保育	7:00～8:30	土曜	早朝保育	7:00～8:30
	通常保育	8:30～16:30		通常保育	8:30～16:30
	延長保育	保育短時間児	16:30～19:00		16:30～19:00
		保育標準時間児	18:00～19:00		18:00～19:00

★1号認定児

平日	早朝保育	7:00～	8:30
	通常保育	8:30～	13:30
	預かり保育	13:30～	19:00

⑥職員数

園長 1名 主幹保育教諭 2名 看護師 1名 保育教諭 18名（うちパート6名）
障がい児加配 保育教諭 4名（うちパート3名）
子育て支援センター事業 保育教諭 3名（正職1名、パート2名）
延長保育事業 保育教諭 2名（パート職員） 一時預かり事業 保育教諭（パート職員） 1名
預かり保育 保育教諭（パート職員） 1名 その他保育補助 4名（うち子育て支援員2名）
学校内科医・学校歯科医各1名（各年2回検診実施）学校薬剤師1名（年2回検査実施）※嘱託

2. 教育保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制

（3号認定）

0歳児	12名	職員2名＋パート職員3名
1歳児	20名	職員3名＋パート職員1名
2歳児	24名	職員3名＋パート職員1名、障がい児加配パート職員1名

(2号認定) (1号認定)

3歳児	25名	5名	職員2名+障がい児加配パート職員1名
4歳児	24名	5名	職員2名+障がい児加配パート職員1名
5歳児	24名	6名	職員2名、障がい児加配パート職員1名
子育て支援センター		職員3名 (正職1名、パート2名)	
早朝・延長保育		職員2名 (パートタイム職員)	
保育補助者		職員4名 (パートタイム職員※うち2名子育て支援員)	

⑤教育・保育内容

- 保育者の指示的な保育を見直し、子どもたちに対して声をかけすぎず、行動や言葉を待てる保育を目指しながら指導を行ってきました。OJT教育が行えるようにまずは主幹保育教諭やリーダー職員を中心に話し合いながら自己の保育を見直しています。
- 配慮の必要な子どもや活動に集中できない子どもへは少人数グループでそれぞれの発達に合った活動やペースに合わせながら関わりました。しかし、近年では配慮が必要な子どもの人数の増加だけでなく全体的に子どもたちの幼さや集中力の低下が目立ってきています。保育内容を見直しながら子どもの発達や成長に合わせた保育を行うとともにメリハリのある保育を行っていきます。
- 夏の厳しい暑さや熱中症の対応策として園庭に可動式のサンシェードを設置しました。サンシェードを設置することにより、人工芝の温度が高温にならず、日陰の下で遊ぶことができるようになりました。外遊びの時間はその日の気温や湿度により適宜考え、水分補給をしっかりと行いながら子どもの体調を考慮した保育を行いました。
- 子ども達の体力や運動能力が低下してきていることから運動の内容を見直し、リトミックの中の「歩く」「走る」など体の動きの基礎となる部分を丁寧に見ながら運動を行いました。
- 乳児期に大人との愛着関係を構築することが心の安定につながることを考え、じゃれつき遊びの時間にも子どもの発することに応答的に関わることを意識しながら保育をしました。
- 食に興味がない子どもや偏食の子どもが増えています。食育で食材に興味を持つことや給食を作ってくれている方への感謝の気持ちを養いました。また、野菜栽培では様々な夏野菜を育て、食すことで食への興味関心を持てるようにしました。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」や人権に関する絵本を通して思いやりや、困っているときには助け合うことを伝えました。また、性教育についても自分のからだを知ることから始め、自分も他の人も大切な存在だということを知らせました。
- 令和6年度よりSDGs教育の「地球フレンズ」以外に世界の国の子どもたちとオンラインで繋がる「世界タッチ」を取り入れました。各国の遊びや文化を体験しながら国際交流を行いました。

⑥家庭との連携

- クラス懇談会 (年1回) 個人懇談会 (年2回) 保育参加 (年2回/人) リトミック参観 (乳児・幼児 年1回) を実施しました。

- ドキュメンテーションを通して保育内容や保育のねらいを伝えるとともに、子どもたちの日々の姿を写真で伝え、保育への理解を深めていただけるようにしました。
- 配慮が必要な子どもについては、家庭、関係機関（保健センター、わかくさわかずぎ園）と連携したり、訪問支援事業や発達相談の機会を設けました。4歳児で行われる5歳健診の結果については、保健センターと連携しながら発達相談につなぐなど就学に向けての取り組みも行いました。

⑦人材育成

- 経験の浅い職員が多く、「チェックリスト」を基に人材育成を行いました。また、その保育を確認するためのリーダー職員もリーダーとしての経験が浅く、リーダー職員の研修や話し合いを随時行い育成に努めましたが、まだまだ力不足も見られ、人材育成に苦慮しました。
- 職員会議やリーダー会議などで互いに意見を言う場をつくり、コミュニケーション力を高められるように努めました。
- 外部研修や園内研修を行い、雇用形態にかかわらずすべての職員を受講対象として、より多くの職員が参加して専門的な知識を身に付けることを目標にしていますが、職員の学びの場が少なく、今後の課題として残りました。
- 「不適切保育」については、チェックリストやマニュアルを活用し勉強会を実施し、自身の保育を振り返る機会を設けました。
- 安田式遊具を用いた運動遊びについては講師を招いての研修会を行い、年齢発達に応じた運動遊びの指導法や集団遊びの進め方について学びました。学んだ内容については指導計画にとり入れています。継続出来ていないことを痛感しています。

⑧地域の実態に対応した事業

- 地域子育て支援センター事業（センター型）
 - ・親子ヨガや体育遊び、英語遊びなどの講師を招き、親子で楽しむことのできるプログラムを実施したり、近隣のコミュニティセンターで親子活動も実施しました。
 - ・保護者が抱える悩みを担当保育士だけではなく、クラス担任や看護師も相談に応じ、少しでも在宅の方の子育てに関わるようにしました。また、保育相談などを受け、必要に応じて保健センターなど関係機関とも連携し子育て支援を行いました。
 - ・令和6年度より園内で行う活動を増やし、同年代の在園児との交流やクラス担任との交流も行っています。地域の保護者の方に園を知っていただき、就園につなげていけるようにしました。
 - ・活動内容は毎月のおたより、ホームページ、守口市広報紙を通じて地域に情報発信しました。
- 地域とのかかわり
 - ・守口東高校の学生が授業の一環で子ども達に絵本や紙芝居を読んでもくれる機会がありました。遠足の時には学校内にバスを止めさせてもらうなど、園行事への協力をお願いしました。令和7年度は避難訓練も合同で行う予定をしています。

- ・子どもの健康に関する情報交換や、子育てに関する相談業務を大阪旭こども病院と連携して行いました。
- ・5歳児は守口小学校と八雲小学校で1年生との交流会や授業見学などをさせていただき、就学に向けての準備を行いました。また、就学先の小学校教員と子どもの育ちや生活、学びの実情などについて情報交換をする機会をもち、スムーズな就学に繋がるようにしました。

⑨苦情処理

- 第三者委員の設置について、入園説明会、園のガイドブック、ホームページや園内掲示、クラス懇談会を通じて保護者に伝え周知しました。
- 「苦情申し出窓口」として主幹保育教諭が受付担当者、園長が責任者として、「意見箱」「アンケート」など保護者からの意見や要望に対しては24時間以内に回答します。また、対応途中のものに関しては途中経過を随時伝えます。現状、意見箱を通じての苦情はありませんでした。

⑩リスクマネジメント

- ヒヤリハットを職員一人一枚、毎日記入し、子どもの重大事故を未然に防ぐ取り組みを行い、収集したヒヤリハットを月末に検証し、事故が起こりやすい時間帯や場所などの要因を集約し、再発防止に努めました。
- 消防署と連携し、総合災害訓練（年1回）、通報訓練（年2回）を行います。なお、避難・消火訓練は毎月1回以上実施しました。
- 災害時の対応については、保護者にも重要事項説明書やクラス懇談会、ガイドブックで丁寧に伝えるとともに、保護者と連携して災害時の対応に備えます。また、災害を想定した引き渡しカードを用いた引き渡し訓練（年1回）を実施しました。引き渡しカードを用いた訓練は初めてだったため、各クラスで引き渡し確認や受け渡しで戸惑いや時間がかかることもあり、訓練を継続することでスムーズに引き渡しが行えるように改善していきます。
- 非常時の園児受け入れ先として、近隣の企業や病院、介護施設に使用させていただけるよう依頼し、日ごろから連携します。
- 「安全管理年間計画」に基づき、主幹保育教諭と看護師が中心となり、安全管理と園児への安全指導を月1回実施しました。
- 7月に園内で日本赤十字社の救急救命講習を実施しました。
- 備蓄品リストをもとに災害備蓄品の点検（月1回）を行いました。（園児引渡表・非常持ち出し袋・倉庫備品・アレルギー児用備品など）また、備蓄品の期限確認と入れ替えを行っています。

⑪大型工事等修繕及び備品購入の予定

- LED 照明入れ替え工事 3,800,000 円